

ならはく教育普及スペース 「ちえひろば」のオープンに向けて

当館学芸部研究員 翁 みほり

ご存知の方も多いと思いますが、当館は仏教美術を中心とした文化財を展示する博物館です。けれど、仏教美術というと、「難しそう」「敷居が高い」とイメージされがちです。そうしたイメージを取り除き、より幅広い層に仏教美術に親しんでもらうために、無料ゾーンである当館の地下回廊の一角に、仏教美術を楽しく学べる体験学習スペースを新たに設けました。そのスペースの名称は、ならはく教育普及スペース「ちえひろば」です（図1）。

「ちえひろば」という名称は、当館の教育普及キャラクター「ちえひろ丸」（図2）にちなんでいます。「ちえひろ丸」のモデルとなったのは、館蔵品の重要文化財「文殊菩薩像」（南北朝時代 建武元年「一三三四」）です。「三人寄れば文殊の知恵」ということわざもあるように、文殊菩薩は知恵を司るほとけです。「ちえひろ丸」は、



図1 ならはく教育普及スペース「ちえひろば」

文殊菩薩をモデルにしたキャラクターという点で、「知恵が広まる」という意味から、その名前がつけられました。そして、ならはく教育普及スペースは、人びとが集い、仏教美術への学びや知識が広がっていく始まりの場になるように、という願いを込めて、「ちえひろば」と名付けました。

ならはく教育普及スペース「ちえひろば」は、令和五年の五月頃より、正式にオープンする予定です。「ちえひろば」では、文化財のレプリカ（複製品）を活用したワークショップも定期的に開催することを計画しています。その一つが、裸の仏像のレプリカに服を着せるワークショップ「ほとけさまに服を着せよう！」です。これは、当



図2 ちえひろ丸

館所蔵の「阿弥陀如来立像（裸形）」のレプリカに服を着せて、如来のほとけがどのように服を着ているのか学ぶワークショップです。実は、このワークショップは、昨年の夏に当館の東新館にて開催した子ども向け展覧会、わくわくびじゅつギャラリ「はっけん！ほとけさまのかたち」の会場においても開催しました（図3）。このワークショップは大変好評で、「はっけん！ほとけさまのかたち」の展覧会が終了した後、継続的に開催してきました。意外なことに、子どものみならず、大人も大勢参加して頂いています。

また、そのほかにも、絵巻物のレプリカを用いたワークショップも開催する予定です。館蔵品の国宝「地獄草紙」や国宝「群邪絵（群邪絵）、朝護孫子寺蔵の国宝「信貴山縁起絵巻」をそれぞれ巨大な絵巻物に仕立て、それらを用いて当館のボランティアが参加者に読み聞かせをするほか、本物の絵巻物と同じサイズの絵巻物のレプリカに実際に触れもらいながら、昔の人びとがどのようにして絵巻物を鑑賞していたのかを体験してもらうという内容のワークショップです。現在、当館の職員や、ならはくボランティアが開催に向けて準備を進めているところです。

ならはく教育普及スペース「ちえひろば」におけるワークショップ等の開催情報は、当館の教育普及ウェブサイト「ならはく教育普及室」や当館のツイッターで今後発信していく予定です。ぜひ開催情報をチェックし、ワークショップ等に参加して仏教美術について楽しく学んで頂けたら幸いです。



図3 ワークショップの様子